

3月20日の開通式および供用開始に向けて、
着々と工事が進む青部トンネル内部(2月5日)。



3月20日、国道362号「青部バイパス」が、いよいよ全区間で開通します。

本号では、全区間開通を前に、「心待ちにしていた皆さんの声」や「開通による町営バスの路線変更」を紹介するとともに、「町民向け内覧会」の参加者募集についてお知らせします。

【問】建設課・建設事業室 ☎(56)2227

【特集】

希望の道

— 青部バイパス全区間開通 —

このため、県では、藤川区から青部区を通り崎平区へと接続する「青部バイパス」の整備を進めてきました。そして、平成15年に開通した青崎橋、平成26年に開通した藤沢橋に続き、3月20日に「青部トンネル」と新設道路が開通することで、青部バイパスの全区間1.7キロにおいて供用が開始されることとなります。

町民の生活に大きな影響を及ぼしている国道362号の狭い区間は、普通車同士でもすれ違いが困難となる箇所が多く、日常生活の不便や観光シーズンの交通規制(片側交互通行)による渋滞を引き起こしています。

町のさらなる「一体化」へ



道幅の狭い国道362号



藤川区側のトンネル入口



青部区側の新設道路・トンネル入口



資料提供: 島田土木事務所



東海ブロードバンドサービス株式会社
中井 一夫 代表取締役社長

(株)オサシ・テクノス
矢野 真妃 代表取締役社長

川根本町
鈴木 敏夫 町長

京セラコミュニケーションシステム株式会社
黒瀬 善仁 代表取締役社長

「IoT活用実証実験」に関する 包括連携協定を締結

1月16日、役場本庁において、川根本町、京セラコミュニケーションシステム株式会社(KCCS)、株式会社オサシ・テクノス、東海ブロードバンドサービス株式会社(TBBS)の4者による包括連携協定が締結されました。

「IoT」とは、センサーなどの電子機器をインターネットに接続し、その機器を通じて収集されたデータの解析結果を、現実社会に還元する仕組みです。町では、整備された高度情報基盤の活用とともに、「IoTを活用した地域課題の解決」に向けた取り組みに着手します。

※包括連携協定：地域が抱える社会課題に対し、自治体と民間企業が双方の強みを生かして協力しながら、課題解決に対応するための大枠を定める仕組み。

【実証実験の概要】

今年4月から1年間、まずは農業と防災の2分野において実証実験を開始する予定です。今後は、高齢者に対する「ゆるやかな見守り」や鳥獣被害対策などの分野においても検討していきます。

① 川根茶の栽培に関するデータ収集

栽培土壌の基礎データである地温や土壌水分などをセンサーを使い測定し、無線を介してデータ収集する。これまで経験や勘で進めてきた栽培技術をデータによって可視化し、生産性の向上を図ることが目的。

② 大井川支流の河川水位観測

大井川の支流に水位計を設置し、水位の上昇を測定する。これまで予測が難しかったゲリラ豪雨などによる急激な河川水位上昇を予測するなど、近隣住民の迅速な避難行動につなげるのが目的。

